

火のごとく 水のごとく 風のごとく

兵庫県消防学校の巻

編集局

兵庫県消防学校は、昭和23年4月に「消防訓練所」として神戸市兵庫区内に開設された後、25年6月に兵庫県消防学校と改称、昭和26年12月に神戸市生田区（現中央区）、昭和46年4月には神戸市兵庫区（現北区）への新築移転を経て、平成16年4月に三木市に開設された兵庫県広域防災センター内に移転、同センターの中核機関となっている。

広域防災センターは阪神・淡路大震災の教訓をもとに、平時は地域の防災力を高めるための人材育成の場として、災害時は全県域をカバーする広域防災拠点として設置されたもので、山陽自動車道三木東ICから南に3kmと、県内高速道路網を利用した県内外への物資・人員搬送に便利な場所にある。

敷地面積は12万9,650㎡で、兵庫県災害対策センター（神戸市中央区）の災害情報に関するバックアップ機能を備えた学習・管理棟、定員170名余の大教室や救急実習室等を配置した教育棟、最大収容数172名の宿泊棟のほか、操法訓練場（硬質ゴム舗装：9,900㎡）、大規模災害訓練場（クレー舗装：1万8,200㎡）、屋内訓練場（鉄道事故訓練施設を含む：1,190㎡）、主訓練棟（RC造10階建：1,488㎡）、補助訓練塔（A・B・C塔：計493㎡）、水深2m余の25mプールと同5mのダイビングプールを併設した水難救助訓練場（208㎡）などの施設を有している。同施設は今後発生が予測される南海トラフ巨大地震等の大規模災害の際には、全国の自衛隊、警察、消防の部隊が集結する拠点となる。

平成26年度の教育訓練実施計画では、神戸市を除く県内23消防本部を対象に、上半期には初任教育160名（うち女性1名）、潜水科18名を実施、下半期には警防科29名、特殊災害科25名、危険物科28名、火災調査科33名、救急科149

名、救助科36名、中級幹部科26名、上級幹部科14名、さらに教育訓練の基準が改正となった消防団員対象の指揮幹部科2課程についても開講することとしている。また、救急救命士養成課程においては、神戸市を含む県内24消防本部を対象に171



あがりくち 上り口 豊 兵庫県消防学校長

名のビデオ喉頭鏡追加講習を実施した他、9月からは本課程47名が入校し、来年3月の国家試験に向けて、勉学に励んでいる。学校スタッフは、学校長を兼務する広域防災センター長を筆頭に、副校長（広域防災センター管理課長兼務）、学校教官15名、嘱託員9名（うち3名は宿直教官）で構成されている。

今回の取材では、上り口豊兵庫県消防学校長と下原壽宏主任消防教育専門員に教育訓練等の状況についてお話を伺った。

4つの基本方針と先輩消防人の思いを伝承

本誌 消防学校の教育方針をお聞かせください。

あがりくち 上り口豊兵庫県消防学校長 消防学校では、①消防の本質と責務を正しく認識させ、人間性豊かな人材を育成する、②消防活動に必要な規律・節度・団体行動等の重要性を認識させ、団結力を高める、③強靱な体力・気力を錬成し、的確な判断力・迅速な行動力を養成する、④社会情勢の変化や市町等の要望に即応した消防に関する知識の習得と技術の向上を図る、を教育の基本方針としています。加えて、阪神・淡路大震災から来年1月で20年を迎えますが、その当時指揮命令する立場だった中隊長クラスがあと4年から5年で退職してしまうため、水利が無い中で消防活動や瓦礫からの救出活動等を直接伝授してもらう時間が少なくなってきました。今年度の初任教育生は18歳から26歳、来年度以降も震災当時生まれていなかったり、幼くて記憶が曖昧な学生が入校してきます。その初任教育生に対して先輩方の震災当時の消防活動や救助活動に懸けた思い



兵庫県消防学校

を伝えていくことも大事なことだと思っています。

本誌 訓練中の安全管理についてお聞かせください。

上り口学校長 いわゆる団塊の世代の大量退職が始まり、10年前は百人前後だった初任教育生が25年度は166名、26年度が160名と、ここ数年は多数の入校生を受け入れていますので、安全管理には特に気を配っています。2年前からは県内の消防本部から派遣教官とは別に、研修教官として若手の職員を派遣してもらっています。今年度も3名の研修教官を派遣していただいております、その分「多くの目」で危険を伴う訓練の目配りが出来るようになりました。日常生活上の健康管理については、初任教育生による生活委員制度を設け、毎朝の健康状況を各班ごとに教官に報告し、その情報を教官達が授業前に把握する仕組みになっています。特に訓練強度の高い救助訓練、水難救助訓練の前には朝の体温も報告させ、概ね37℃を目安に個人面談の後、見学か訓練に参加させるかを決定しています。また、授業終了後にプールや三連ばしごを使った訓練を行うときは必ず複数名以上の教官の立ち会いの下で実施するようにしています。



下原 壽宏 主任消防教育専門員 独自の取組をお聞かせください。
下原壽宏主任消防教育専門員 独自の取組としては、災害現場指揮課程を取り入れました。同課程は隔年開催で来年に第2回目を予定していますが、昨年参加した職員(41名)には好評でした。時代のニーズに応えられるよう授業科目を精査し、県内の実情にあった教育訓練を目指しています。また、今年4月から改正になった消防団教育「指揮幹部科」については、11月と12月に大規模災害を想定した指揮命令システムの強化を中心に消防団員の教育の充実を図ります。



教職員の皆さん

チームワークと緊張感の継続が基本

本誌 初任教育生に対する指導方針をお聞かせください。

下原主任 初任教育生に対する指導の行き過ぎが度々ニュースになります。実災害現場では体験したことがない連続した緊張感を強いられませんが、訓練ではなかなか実感できませんし、どうしても訓練に対する慣れが生まれてしまいます。ですから、訓練中に緊張感が不足しているような場合は、本来の訓練を中止してでも腕立て伏せやランニングを追加で課すなどの指導を行っていますが、彼ら自身で緊張感をコントロールできるようにしてほしいと思います。授業時間内と休憩時間内、課業外の訓練と課業内の訓練などONとOFFを分けて考え、教官と初任教育生の間に「緊張と緩和」を保つようにしています。

本誌 今年7月和歌山県で初任教育生によるの暴行障害事件がありました。初任教育生への対応はいかがでしょう。

下原主任 本校では、総代1名と小隊長4名、班長22名を任命し、毎日、班ごとにホームルームで問題点を話し合う時間を設けていますし、また、毎年5月末から6月中旬にかけてメンタルヘルスの取組として小隊長及び班長を対象として個別面談を行い、寮生活や学生生活上の問題の有無について聞き取りをしています。基本的には学生を信頼していますが、教官も広い視野で学生達の行動を見るようにしています。

兵庫県丹波市で豪雨災害による災害復旧訓練



兵庫県消防学校第79期初任教育生157名は9月2日、8月16日から17日にかけて丹波地方に降り続いた豪雨により土砂崩れ等の被害が発生した兵庫県丹波市の災害現場において、山崩れ等で排水が傷み、次回の降雨で雨水が流れ込む恐れがある家屋を対象に土のう積みを実施した。4月からの消防学校で鍛えられた規律、節度及び消防士としての使命感を前面に出し、初めての災害現場活動に全力で取り組んだ。



救助活動や林野火災等で活躍する兵庫県消防防災ヘリコプターの概要・装備等の説明を受ける初任教育生（平成26年7月4日）

努力は嘘をつかないことを肝に銘じて

本誌 最後に初任教育生にエールをお願いします。

下原主任 「頑張れ」です。消防士を志して消防士を拝命したのはゴールではなくスタートラインです。現場で活躍することによって初めて地域住民に行政サービスを提供できるわけです。その事を忘れないでほしいと思います。学校を卒業し、やっとスタートラインに立てたことを肝に銘じて今後も頑張ってください。

上り口学校長 これから長い消防人生が始まります。消防士を志した時の気持ち、拝命を受けた時の気持ちを生涯持ち続けてほしいと思います。初任教育をやり遂げたことに拍手を送りたいし、「努力は嘘をつかない」ことを忘れないでほしいと思います。

第79期初任教育生に聞く

本誌 消防士を目指したきっかけを教えてください。

藤久恭太消防士 加古川市消防本部所属です。小学生の時から陸上競技をやっていたので体力には自信がありましたし、体力を活かしたやり甲斐のある仕事に就きたいと思っていました。中学生の時に参加した「トライやる・ウィーク」で消防職員の皆さんの命がけの仕事ぶりを見て消防士を目指そうと思いました。

山田健太消防士 姫路市消防局所属です。大学生の時は医

療機関への就職を目指していましたが、東日本大震災時の消防活動を見て、自分も地元姫路市に貢献したいと思うようになり消防士を目指しました。将来的には救急救命士の資格を取得し救急隊として活躍したいと思います。

平 幸祐消防士 明石市消防本部所属です。小学生の頃は単純に消防士はカッコイイと思っていましたが、進学した兵庫県立舞子高校環境防災科（防災を専門に学ぶ全国で唯一の学科）で、消防学校体験やボランティア活動を通して、人を助けることがいかに大変で大切かを学び、人命救助のプロになりたいと強く思うようになりました。

野口勢太消防士 西宮市消防局所属です。普段からテレビ等で地震や風水害時の消防活動は見聞していましたが、高校の時、野球部の試合中にボールがピッチャーの胸にあたり心臓が止まるという事故がありました。そのとき、たまたま居合わせた救急救命士の方がAEDで救命措置する姿の目で見て感動したのが消防士を志すきっかけです。

阪本幸平消防士 尼崎市消防局所属です。消防を目指そうと思ったのは大学2年生の時です。小さい頃から野球をやっていて体力に自信があったのはもちろんですが、野球を通じて体験した団体生活や協調性は、チームワークが不可欠な消防という職業にも役立てることが出来ると思いましたし、自分の性格にも合っていると思い志望しました。

全てが想像以上だった教育訓練

本誌 消防学校に入校してから4か月が過ぎましたが、ど



神戸市消防学校との合同体力錬成会での10kmマラソンと綱引き（平成26年6月5日）



セーラー渡過の訓練